

審議会等の会議の記録

会議の名称	第2回伊勢崎市下水道事業経営戦略等検討委員会
開催日時	令和4年7月5日(火) 13時30分～15時30分
開催場所	伊勢崎市上下水道局 会議室
出席者氏名	[委員] 熊倉会長、平川副会長、笠原委員、加藤委員、松村委員、 田中委員、清水委員、江原委員、吉田委員、細野委員 [事務局] 尾島上下水道局長、井野副局長兼総務課長、 西目下水道施設課長、五十嵐下水道整備課長、 田島浄化センター所長、糸井下水道整備課計画係長、 土屋総務係長、関野経理係長、三上経理係長、菊池料金係長、 石川主査、遠山主査 [受注者] 横浜ウォーター株式会社
傍聴人数	2名(公開)
会議の議題	・基本情報・現状認識について
会議資料の内容	・次第 ・伊勢崎市下水道事業経営戦略等検討委員会 委員名簿 ・席次表 ・資料1「基本情報・現状認識について」 「伊勢崎市公共下水道事業経営戦略【概要版】」 「伊勢崎市農業集落排水事業経営戦略【概要版】」 「伊勢崎市特定地域生活排水処理事業経営戦略【概要版】」 「伊勢崎市下水道全体計画一般図(汚水)」 ・資料2「処理場の仕組みについて」 「浄化センター平面図」

会議における
議事の経過
及び発言の要旨

【第2回検討委員会】

1 議 題

・基本情報・現状認識について

事務局から資料1「基本情報・現状認識について」「伊勢崎市公共下水道事業経営戦略【概要版】」「伊勢崎市農業集落排水事業経営戦略【概要版】」「伊勢崎市特定地域生活排水処理事業経営戦略【概要版】」「伊勢崎市下水道全体計画一般図（汚水）」資料2「処理場の仕組みについて」「浄化センター平面図」に基づき説明があった。

【質問・意見】

委員長：質問及び意見を…。

委 員：資料1の12・13ページを見ると合併浄化槽が増えているイメージである。現在、新築の際、下水道計画地区であっても管路が来ていない場合、合併浄化槽を設置する以外なく、その後、管路が伸びたとしても公共下水道に切り替える人は少ないと思われるので、補助金を出したら良いのではないか。また、境島村と東新井地区の浄化槽と他の地区の合併浄化槽との違いは何か。

事務局：伊勢崎市では合併浄化槽を設置した後、下水道の管路が来た時には切替工事についての補助金は、去年まで3万5千円であったが、令和4年度から10万円に補助金を増額し推進を図っている。また、境島村と東新井地区については下水道区域外であるので伊勢崎市で浄化槽を設置し環境保全・生活排水処理の推進を図っている。

委 員：下水道使用料は同じ料金なのか。

事務局：公共下水道、農業集落排水、市設置型浄化槽の使用料は全て同額である。

委員長：他に質問は…。

委 員：質問なし。

委 員：下水道が整備され汚水量が増えたら、今後、処理場を増やす必要性が出るのか教えて欲しい。

事務局：今後、整備が進んで汚水量が増えたとしても、単独公共下水道事業、流域公共下水道事業を合わせて最終的に伊勢崎市の人口分を2か所の処理場で賄うことが可能である計画としている。現在の状況から見ると、処理場の増設より既存の処理場について維持管理費をなるべくかけないような整備を行う計画を進めている。

委員長：人口減少社会の中、節水の意識も高まっているので既存の2か所の処理場でほぼ処理できると推測される。質問だが、「伊勢崎市下水道全体

	<p>計画一般図（汚水）」の青字の部分である農業集落排水事業について、公共下水道事業への編入計画を伊勢崎市は進めているか。</p> <p>事務局：現在8地区の農業集落排水地区について、今後、最終的には全て公共下水道事業に編入が出来るよう経済比較をしながら検討したい。処理場については一つでも少ない方が維持管理に費用が掛からないので工夫して整備していきたい。</p> <p>委員：市営住宅では冬から春先くらいまで水が流れず、ちょっと臭いがするという苦情があるため、側溝にグレーチングをしたり板をはめ直したりの対策をしているという意見がある。</p> <p>委員：切替工事について、補助金が出るのは大変助かる声もあるが、近くに管路が通っている場合とそうでない場合では工事費が違うと思うので、同じ負担に統一することはできないか。</p> <p>事務局：個人の宅地の広さや土地の形状など様々な条件があると思うので、指定工事店に見積りを取って検討していただきたい。</p> <p>委員：生活保護世帯や生活困窮者に対し工事費用を伊勢崎市が負担する制度があるのか。</p> <p>事務局：福祉担当部署で高齢者や体が不自由な方に対してトイレの改築や水洗化にするための補助金等が出る制度があると思われる。</p> <p>委員：生活排水についてのPRはしていないのか。</p> <p>委員：くらしの会では水を汚さないよう、例えば油は洗う前にふき取る、節水のため風呂の残り湯は庭に撒いたりして再利用するなど、衣食住に関してより良い生活をするために活動をしている。</p> <p>委員長：排水処理の仕方環境負荷が減るということを確認し、私達の暮らしが安定するよう、税金の有効活用で環境が改善されるよう議論していく必要がある。</p> <p>委員：汚水処理人口普及率が100%になるのはいつごろになるのか。</p> <p>事務局：資料1「汚水処理人口普及率の推移」で令和3年で68.79%。最終的に100%に近づけていくのが目標で、令和9年度までに86.4%まで伸ばす計画だが、今の整備状況、事業費の中ではなかなか厳しいので、単独浄化槽から合併浄化槽に転換していただき汚水処理人口普及率を高めていきたい。</p> <p>委員長：工業団地内は各事業所で汚水処理をしているので、普及率の数字には出てこない。少しでも普及</p>
--	--

率を上げて行くために私達に何ができるか、市民の皆様のような努力と団結がなければ良い数字は出ないだろう。

委員：伊勢崎市は平坦地で管路整備の物理的な支障は少なく、地形的にも北から南にかけて自然な勾配は取れているにもかかわらず、普及率が上がらないのは、西部地区の住宅化が進んでいる割に下水道整備が追いついていないのではないだろうか。市の産業の発展には下水道管路整備が不可欠であり、市の文化度バロメーターではないだろうか。

委員：伊勢崎市に限らず全国の自治体で下水道のPRや広報が課題になっている。下水道普及率を上げるために下水道協会でもPRや広報を強化し取り組んでいきたいと思う。

委員：昔は生活排水で河川や湖沼等を汚さないよう、小学生向けに下敷きを配ったり社会科見学など行ったりマスコミでも取り上げられたりしていたが最近あまり聞かないので、市や水道局で広報してもよいのではないだろうか。質問になるが、資料2の発電や汚泥の有効利用はどのようなものか。

事務局：汚泥については産業廃棄物として処理していて、処理先で資源として有効利用している。令和3年度の汚泥処理費は伊勢崎浄化センターが7,300万円、平塚水質浄化センターが2,700万円が実績。バイオマスについては1,200万円分相当を発電しているが、硫化水素を取り除く費用もかかっている。

委員長：リンについてはどうなっているか。

事務局：リンは100%回収可能ではあるが、市場価格で売ったとして年間で試算した結果、伊勢崎市では8,000万円の赤字となり、採算が合わない。

委員：単独浄化槽を廃止する法的な整備はできないのか。

事務局：法的に個人の規制はできないので、補助金を出して切り替えをお願いしているのが現状である。下水道整備を促進すると共にPRをし、できる限り早く接続切替をお願いしたい。

委員：汚水処理人口普及率についてパーセントで聞いてもわかりづらいので、戸数で教えて欲しい。

事務局：伊勢崎市の全人口約21万2千人に対し、公共下水道・農業集落排水・市設置型及び個人設置型合併浄化槽を合わせると約14万6千人。残り約6万6千人が単独浄化槽か汲み取りとなる。

委員長：普及率を上げるためには市で推進条例のようなも

	<p>のを整備する必要があるのではないか。</p> <p>委員：伊勢崎市内（旧伊勢崎・赤堀・東・境）で公共下水道と浄化槽の議論がされているのだろうか。</p> <p>事務局：議論はないが、市町村合併前の小さい単位では単独公共下水道と流域下水道の区域が設定されたことにより、効果的に整備が進んでいるが、伊勢崎市全体では市街化区域や調整区域では集落地域が点在しているため、なかなか広域的に事業を行うのが難しい。今はまとまった街ができていてエリアを効果的に整備していく計画を策定中である。</p> <p>委員：昭和52年から始まったが、設備はどのくらいの年数持つのか。</p> <p>事務局：設備の耐用年数は15年ですが、伊勢崎浄化センターでは、ストックマネジメント計画により令和2年には塩素混和池、令和3年からは沈砂池ポンプ室の耐震補強と設備更新工事を実施している。今後は水処理施設の更新を計画している。</p> <p>委員：雨水計画は今回の経営戦略に含まれるか。</p> <p>事務局：今回の経営戦略は使用料をいただいている下水道事業が主に対象となっている。</p> <p>委員長：雨水と汚水をどう分けるのか別の大きな問題があるが、今回は汚水処理・市民負担に重点をおいて検討したらどうか。</p> <p>委員：下水道がきちんと整備されていると土地の資産価値が上がると思うので、普及率が上がることを望んでいる。</p> <p>委員：総務省の経営戦略改定推進についての通知の中に投資財政計画に盛り込むべき事項やチェックリストなどもあるので、その内容を参考に経営戦略を策定していただきたい。</p> <p>委員：設備整備や投資についての検証については次回詳しく聞きたい。</p> <p>委員長：今回の検討委員会では現状認識を共有した。経営戦略の改定にあたり、伊勢崎市がどう自己判断し新しい計画を策定していくか、次回の検討委員会で提示し議論を深めたい。</p>
--	---